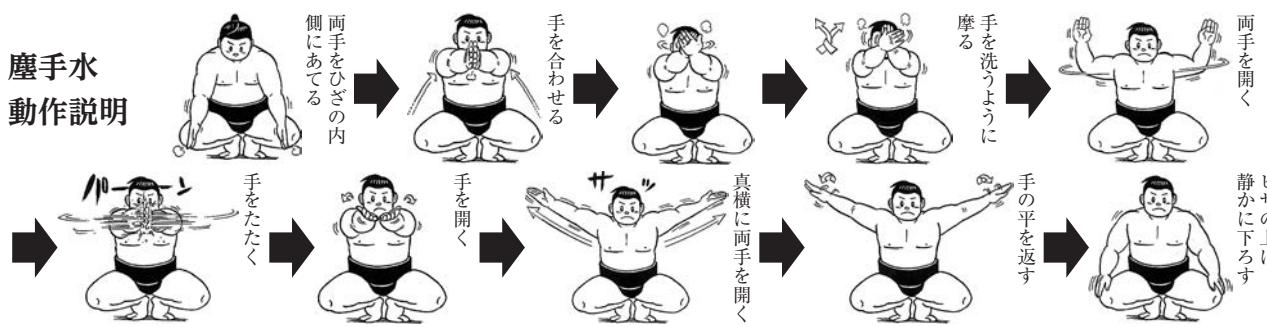


試合の前後の所作

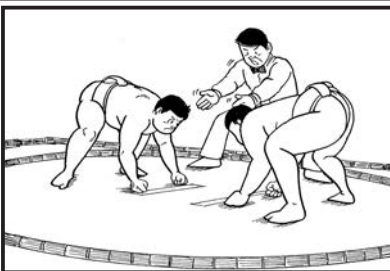
一土俵に上がってから下りるまで一


※大相撲の所作とは異なる点があります。

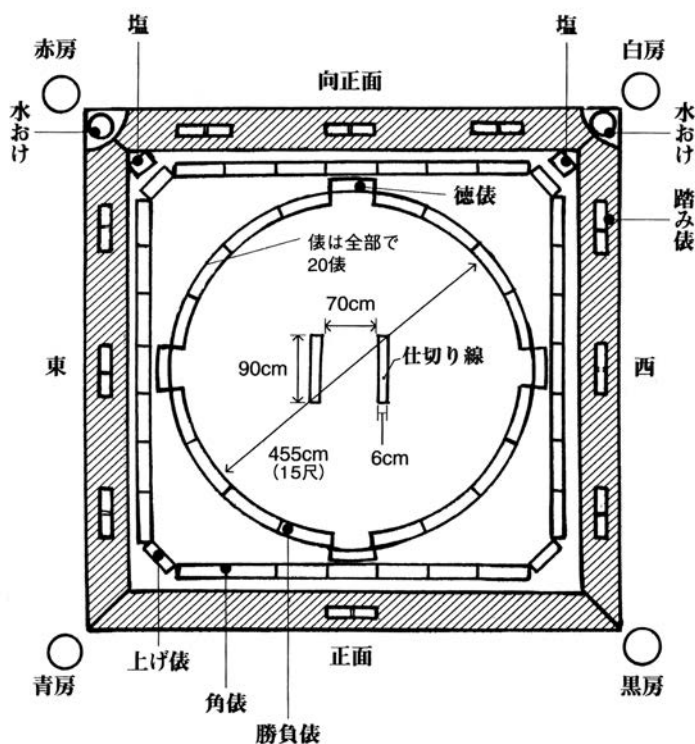
<p>① 入場</p>  <p>選手は誘導係員に従い、支度部屋から会場へ入場する。</p>	<p>② 選手全員で礼</p>  <p>土俵溜まり席に並んだら、「礼」のアナウンスにしたがい、全員で礼をする。礼の後、土俵溜席に腰を下ろす。</p>	<p>③ 土俵へ進む</p>  <p>「東、～君」「西、～君」と名前を呼ばれた選手は立ち上がり、「ハイッ!」と大きな声で返事をして土俵へ進む。</p>
<p>④ 土俵へ上がる</p>  <p>中央の上がり段に片足を掛け、徳俵の内側(二字口)に入る。このとき、俵や蛇目の目の砂を踏まないよう気を付ける。</p>	<p>⑤ 立礼 (一回戦～)</p>  <p>徳俵の内側でお互いに立礼する。</p>	<p>塵手水 (準々決勝～)</p>  <p>蹲踞の姿勢から、塵手水をする。(塵手水の詳しい動作は塵手水動作説明で解説しています)</p>



塵手水は正々堂々と素手で戦うことを相手に伝える意思表示です。腰を下ろす蹲踞は相手を敬う(思いやる)ことを表し、掌を擦り合わせてたたく動作は手を清めること、両手を左右に広げて掌を見せる動作は武器を持っていないことを表します。

<p>⑥ 仕切り線へ進む</p>  <p>仕切り線の一步手前まで進む。</p>	<p>⑦ 蹲踞</p>  <p>顎を引き、背筋を伸ばして両掌を膝にのせて腰を下ろす。両膝は十分に左右に開き全身の力を抜く。</p>	<p>⑧ 仕切り</p>  <p>蹲踞から立ち上がり、右足、左足と足を開き、脇を締めて腰を深く下ろす。拳を地面に付け、前へ体重を掛ける。</p>
--	--	---

<p>⑨ 試合</p>  <p>主審の「ハッケヨイ！」の掛け声により立ち上がり、取組む。</p>	<p>⑩ 勝負の決定</p>  <p>勝負が決まると、主審が東西の勝者側に腕を挙げる。両者は徳俵内側へ戻る。</p>	<p>⑪ 立礼</p>  <p>主審の「礼」の合図でお互いに立礼する。</p>
<p>⑫ 勝者は蹲踞</p>  <p>勝者はその場所に蹲踞する。敗者は土俵を下りる。</p>	<p>⑬ 勝名乗り</p>  <p>主審から「東（もしくは西）」と勝名乗りを受けたら勝者は目礼する。目礼後、土俵を下り、誘導係員の指示に従う。</p>	<p>⑭ 選手全員で礼、退場</p>  <p>すべての試合が終了したら、アナウンスと誘導係員の指示に従い退場する。</p>



◎仕切り線

仕切り線は昭和3年一月場所より土俵に引かれました。仕切り線ができたことで、どの取組も同じ位置で仕切りが行われるようになりました。

◎土俵の大きさ

昭和6年に土俵の直径が3m 94cm (13尺) から直径4m 55cm (15尺) に広がりました。その頃の男性(17才)の平均身長と体重が161cm、53kg。それが現代では171cm、63kgと、体が大きくなっていることがわかります。

◎土俵上での作法

昔から土俵は神様がいらっしゃる神聖な場所とされ、土俵上での礼、塩まき、勝名乗り等の作法は一つ一つ正しく行うことが大切にされています。また、蹲踞や礼等は相手に対して敬意や感謝を表す作法です。